森からのお手紙

12号
2023

Topics

森のこよみ
お客様物語　竹田由美さん

お一人おひとりの人生が異なるように、お墓の選び方も実にさまざま。

その想いや考えを、お届けします。

お客様物語

第12回

今回のお客様　竹田 由美 さん

東京都江戸川区にお住まいの竹田由美さん。ご主人の孝一さんを亡くされ、個別墓「ひばり」をご自身の分もあわせてご契約、2021年1月に納骨されました。

もともと孝一さんとは、小学生の頃から和歌山の同じ町内で育った幼なじみ。野山を駆け回ったり、川でフナを釣ったりできる環境で高校まで同じ学校に通い共に成長していきました。社会人になってから東京で再会、ご結婚されたそうです。二人の息子さんにも恵まれ、幸せな人生を歩んできましたが、60歳を過ぎて孝一さんに癌がみつかりました。「さすがに病気がわかった後は、お墓の話はできませんでしたね」と由美さん。

ご自身ではほとんど心に決めていたものの、「見学をしてイメージとかけ離れていたらまた考え直そう」と、二人の息子さんと一緒に墓苑を見に行きました。孝一さんの考えを理解している息子さんたちも賛同し、その場で契約をすることになりました。

森の墓苑の周辺は、道が整っているので行きやすく、かといって開発され過ぎていない、結構自然が残っていて、貴重な環境と感じるそうです。「墓石がずらりと並ぶ霊園は威圧感を感じますけど、森の墓苑はまったく反対で、『ここでみんな安らかに眠っているんだろうな』と思えました。お墓の選び方も今は人それぞれですが、私たちにとっては、一番良かった選択ができたと思います」

ただ、まだ病気の心配など何もしてない頃、孝一さんの「死んだらそれきりでいいよな」とか、「自然に還るのがいいかな。樹木葬もいいかもね」と話していたのを覚えていました。

お二人とも、もともと「宗教に頼る」という考えがなく、特定のお寺と付き合いはなかったため、戒名もつけず、海洋葬や樹木葬を探したそうです。ただ、いざ検索してみると、そこまで孝一さんと縁のない東京湾に散骨することや、お寺がブームに乗ったような、作り込まれた人工的な樹木葬に違和感を覚えました。

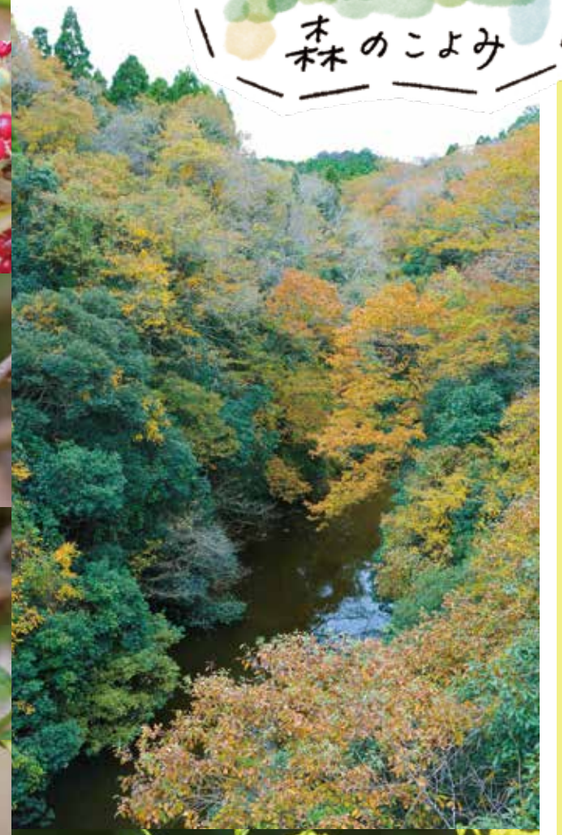
「ほかとは違うな」という印象を残して一度は素通りした森の墓苑でしたが、「よくよく読むと、自然に還れるところ、開発された場所が自然再生されて行くことがすごくいいなぁと思って。息子たちにも、墓守の心配をしなくていい、森になって『ここに眠っているよ』と言えるのもいいなと思いました」と由美さんは話します。

森の墓苑
自然のなかに眠り森を育てる
(公財)日本生態系協会　森の墓苑東京事務所
東京都豊島区西池袋2-30-20音羽ビル
電話 0120-901-580 (9:00～18:00)　HP www.morinoboen.org

森からのお手紙 12号 2023　発行：(公財)日本生態系協会

森の草木たちは、夏の記録的な暑さをのりこえて、ゆっくりと赤や黄金色に染まりました。苑内から山々に目を向けると木々の華やかな紅葉や黄葉が際立ち、房総の自然の美しさに感動します。

森のこよみ



秋の虫たちの音色
「虫聴き会2023」

地域の方々を中心にご参加いただいた虫聴き会では、月明かりの元「秋の音色」に耳を傾けました。協会の専門職員が捕獲した秋の虫の紹介や、苑内の草地で野生のスズムシなどの鳴き声を聴きました。墓苑で眠っている方々にも、この音が届いていることと思います。全国的に草地の減少で、スズムシの鳴き声を聴くことが減りました。もっとたくさんの生きものたちが戻ってこられるように、森と草はらづくりを進めていきます。

体験の機会の場

環境活動に熱心に取り組んでいる企業や、自然にたずさわる行政やNPOの方々に向けて研修会を行いました。苑内の植樹をはじめ、トウキョウサンショウウオが生息しやすいように池の掃除や、切った枝などで斜面の土が流出しないように留める作業などを行いました。その他にも、外来植物抜きや、苗木の根元を守る竹炭づくりなど、盛りだくさんの内容を共有。楽しみながら自然を大切にする方法を広めていければと思います。

◆年末年始◆
12月29日(金)~1月3日(水)は、毎日開苑しています。

開苑時間 10~16時 月曜定休
(月曜日が祝祭日の場合は開苑)

お問い合わせ 電話 0120-901-580
(全日9時~18時)

◆見学やお墓参りについて◆ ご来苑の際は、スタッフ不在の場合がありますので、前日までにご連絡ください。スマートフォンのアプリ「LINE」のビデオ通話を使用したリモート現地見学も承ります。

◆出張説明◆ ご自宅や団体・企業での説明会も承りますので、ご依頼ください。